

晝の往來は、到底難きに似たり。予の喀喇沙爾を通過したるは、六月廿二日にして氣溫午前は七十度、午後九十度を示すに至れり。

又新疆一帶の高原地なるに反し、獨り吐魯番のみは、海拔三百尺に過ぎざる低地にして、其の南方なる湖水面は、更に海水面より低きこと、百五十尺なるに徴するも、宛然摺鉢底の如き位置に在り。故に冬季は溫暖なるが、夏季の酷暑は言語に絶し、到底室内も安息を得る能はず。因て住民は、午前九時頃迄には日用を辨じ、十時より午後四時頃に至る間、各家屋下に構造せる穴室中に避暑するを常とせり。故を以て日中市内は、全く往來を絶つに至る。

氣候は一般不順にして、北路は南路よりも特に甚しく、溫和の候は最も少し。五月の交尙は霰雪を降す如きは、敢て珍しからざるなり。而して七八月に至るや、俄然一變、大暑と化するを例とす。南路は之に反し、北路の如くならざるも乾燥烈しき爲め、晝夜寒暖の差異著しく、日中百度以上の炎暑は黄昏より冷風肌を侵すを常とせり。

風は西及北より來る。最も恐るべき雪風は、西北の地方に多しとす。春季は常

吐魯番の  
極熱

氣候の不  
順

風